

熊取町埋蔵文化財調査報告第5集

(仮称)熊取町立第3中学校建設及び(仮称)南山の手台1号線道路新設改良工事に伴う

# 埋蔵文化財試掘調査報告書

1988年 3月  
熊取町教育委員会

## は し が き

熊取町南部の和泉山脈から派生する丘陵部における文化財調査はあまり進んではおらず、これまで数カ所の遺跡が文化財分布図によって知られているだけです。

このたび熊取町教育委員会で中学校及び道路の建設に伴って西の池周辺を事前に文化財の存否を確認するべく調査を実施いたしました。今後も熊取町内での開発事業の進捗にともなって埋蔵文化財の調査を万全の体制でもって調査・記録・保存を逐行してゆく所存であります。

最後に現地での調査及び本書の作成にあたってご尽力、ご協力をいただきました方々、並びに地元関係者各位に対し深く感謝の意を表します。また、今後の調査にご協力、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

熊取町教育委員会  
教育長 原 治 平

## 例 言

1. 本書は熊取町教育委員会が（仮称）町立第3中学校建設と（仮称）南山の手台一号線道路新設改良工事に伴い実施した試掘調査の報告書である。
2. 調査は熊取町教育委員会発掘調査嘱託員 井田 匡 を調査担当者として昭和62年11月1日に着手し、昭和63年3月31日終了した。  
なお、調査における事務、連絡等は（仮称）第三中学校建設に伴う試掘調査については熊取町教育委員会学校教育課係長 阪上 伸二並びに（仮称）南山の手台一号線道路新設改良工事に伴う試掘調査については熊取町役場建設課係長 古井 与一がおこなった。
3. 調査の実施と整理にあたっては、澤 雅樹、二反田茂樹、久世 公一、西野 徹、幸前和裕、永久 雅之、腕野 登志、富村伊都子、鈴木真帆子の諸氏の協力と援助を受けた。また、関係各位から多大な協力を得た。明記して感謝の意を表したい。
4. 本書中の標高は東京湾平均海面を基準とし、方位は地図以外は磁北を示すものとした。
5. 本書の執筆及び編集は井田がおこなった。

# 目 次

第1章 (仮称)熊取町立第三中学校建設に伴う試掘調査	
I 調査に至る経過	1
II 調査の方法	1
第2章 (仮称)南山の手台道路新設改良工事に伴う試掘調査	
I 調査に至る経過	1
II 調査の方法	2
第3章 調査の結果	
I 周辺の環境	2
II 調査トレンチについて	2
① 西の池	4
② 西の池東側(西の池E区)	5
③ 西の池南側(西の池S区)	6
④ 西の池西側(西の池W区)	7
⑤ 丘陵部	8
III まとめ	9

## 図 版 目 次

図版第一	周辺航空写真
図版第二	調査区域遠風景
図版第三	周辺小字名図
図版第四	調査風景

## 挿 図 目 次

第1図	熊取町の位置	1
第2図	調査の範囲	2
第3図	試掘トレンチ位置図	3
第4図	西の池トレンチ土層模式図	4
第5図	周辺遺跡分布図	4
第6図	E区トレンチ土層模式図	5
第7図	丘陵部及びS区トレンチ土層模式図	6
第8図	W区トレンチ土層模式図	7
第9図	丘陵部グリッド土層図	8
	調査風景	9

## 第1章 (仮称) 第三中学校建設に伴う調査

### Ⅰ. 調査に至る経過

熊取町大字久保所在の西の池周辺において、熊取町教育委員会は中学校建設を計画したが、(仮称) 第三中学校の造成に際して、西の池を埋めて造成工事を実施するうえで、池を含め周辺での文化財の存否について確認する必要があると判断した。昭和63年2月23日付で文化庁へ西の池での土木工事についての発掘通知を提出し、中学校建設に伴う試掘調査を実施することとした。

### Ⅱ. 調査の方法

調査は工事予定地内にトレンチを設定し機械(バックホー)により掘削し、断面を観察し遺構と遺物包含層の存否を確認するといった方法で実施した。

また、バックホーによる掘削が不可能な箇所についてはグリッドを設定し人力により掘削を行いその断面を観察した。

## 第2章 (仮称) 南山の手台1号線道路新設改良工事に伴う調査

### Ⅰ. 調査に至る経過

熊取町大字久保所在の西の池において、熊取町教育委員会は中学校建設を計画しており、その関連道路として熊取町は(仮称) 南山の手台1号線道路新設改良工事を計画した。工事を実施するにあたり、周辺での文化財の存否について確認する必要があると判断した熊取町教育委員会は熊取町役場建設課と協議を重ね、試掘調査を実施することとした。



第1図 熊取町の位置

## II. 調査の方法

調査は工事予定地内にて機械（バックホー）によりトレンチを掘削した後に、断面を観察し遺構と遺物包含層の存否を確認するといった方法で実施した。また、バックホーによるトレンチの掘削が不可能な箇所についてはグリッドを設定して人力による掘削を行い断面を観察した。

## 第3章 調査の結果

### 1. 周辺的环境

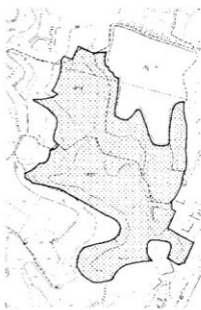
大阪府の南部、泉州地域に位置する熊取町は、和泉山脈より丘陵及び洪積段丘の高位面が派生し、その前縁としての洪積段丘中位面や低位面で構成されている。また、河川の下流には沖積段丘や氾濫原が狭小であるが存在する。

調査地は和泉山脈の一部から派生している洪積段丘の高位面及び中位面にあたり、山林や田畑が広がり、谷筋に地形を有効に利用した溜池が点在する農村風景である。しかし近年、住宅の建設が増加し、各所でその景観も変わりつつある。

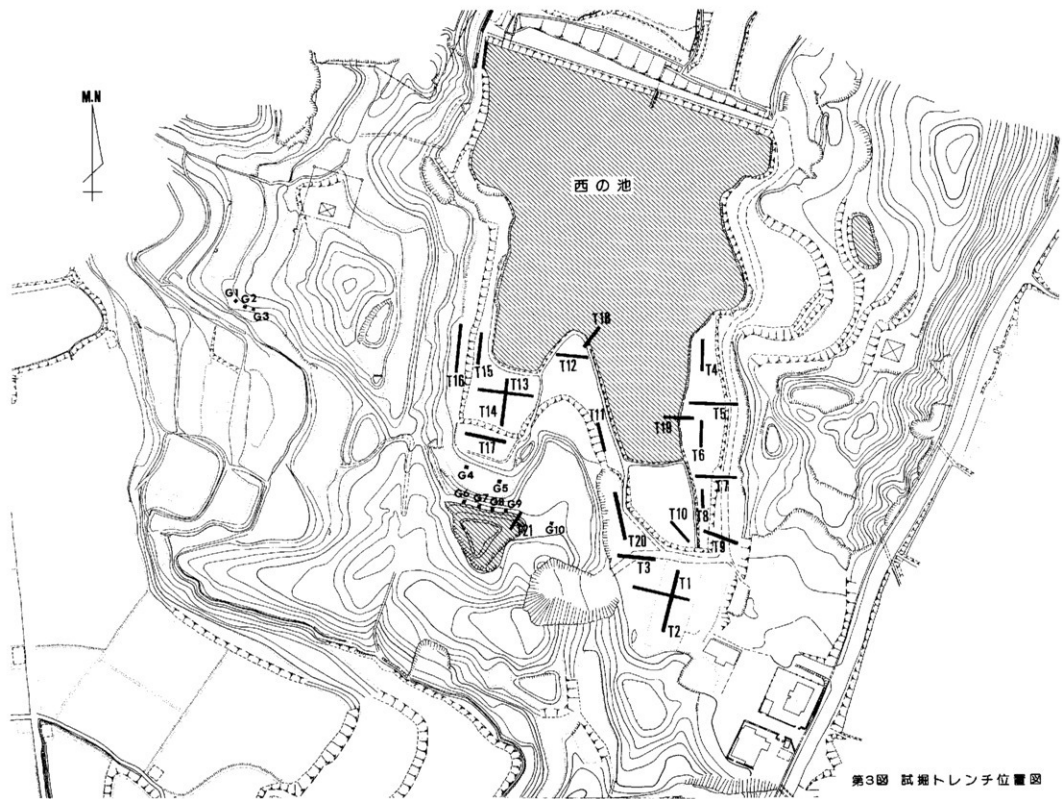
周辺では久保城跡・城の下遺跡・下高田遺跡・成合寺遺跡・花成寺跡・鳥羽殿城跡・墓の谷遺跡などの周知の遺跡が存在するがいずれもその規模・性格の把握にまでは至っていないので、昨年は南部開発に伴う文化財分布調査として、今回試掘調査を実施した範囲も事前に踏査した。

### II. 調査トレンチについて

今回の中学校と道路の建設に伴う試掘調査では、併せて22本のトレンチと10カ所のグリッドを設定して調査を実施したが、本報告書では調査範囲を西の池・西の池E区・西の池S区・西の池W区・丘陵部の5つの調査区に分けて報告する。以下各トレンチおよび各グリッドの状態について述べる事とする。



第2図 試掘調査の範囲



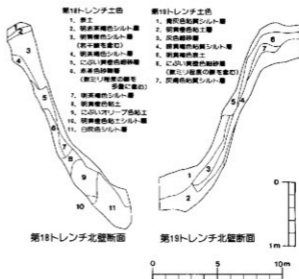
第3図 試掘トレンチ位置図

### ① 西の池

西の池で堤の部分に第18トレンチと第19トレンチの2本のトレンチを設定した。

第18トレンチは西の池西半に位置し、幅は1m長さは9mの東西トレンチである。土層は斜面の自然堆積で遺物は出土しなかった。

第19トレンチは西の池東半に位置し、幅は1m長さは11mの東西トレンチである。土層は第18トレンチと似たような状況であった。遺物は出土しなかった。



第4図 西の池トレンチ土層模式図

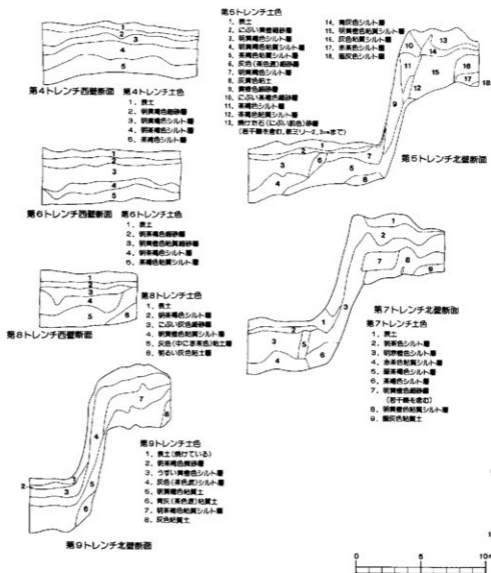


第5図 周辺遺跡分布図

② 西の池東側(西の池E区)

西の池の東側に第4・5・6・7・8・9トレンチの6本のトレンチを設定した。第4トレンチは幅は1mで長さは12mの南北トレンチである。表土は腐葉土で以下自然堆積であった。遺物は出土しなかった。

第5トレンチ・第6トレンチ・第7トレンチ・第8トレンチ・第9トレンチも第4トレンチと同じ状況で自然堆積であり、遺物は出土しなかった。



第6図 E区トレンチ土層模式図



③ 西の池南側（西の池S区）

西の池の南側に第1・2・3・10・20トレンチの5本のトレンチを設定した。第1トレンチは幅は1mで長さは24mの南北トレンチである。表土は耕作土であるがトレンチ北半で自然の流路か溝状の遺構が検出できた。遺構の覆土より年代不明の土師質の破片が1点出土している。

第2トレンチは幅は1mで長さは12mの東西トレンチである。表土は耕作土で以下自然堆積であった。遺物は出土しなかった。

第3トレンチ・第10トレンチ・第20トレンチも第2トレンチと同じ状況で自然堆積であり、遺物は出土しなかった。



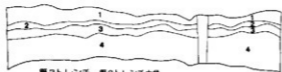
第3トレンチ北壁断面



第21トレンチ

第21トレンチ土色

1. 表土
2. 黄褐色シルト層
3. 黄褐色シルト層
4. 褐色粘土層
5. 黄褐色シルト層
6. 明るいオリーブ色腐砂層
7. 黄褐色粘質シルト層
8. 黄灰色粘質シルト層



第2トレンチ 第2トレンチ土色

1. 表土
2. 黄褐色シルト層
3. 黄褐色粘質シルト層
4. 黄褐色粘質土



第1トレンチ

第1トレンチ土色

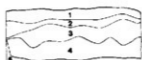
1. 表土
2. 灰青色腐砂層
3. 黄褐色シルト層
4. 黄褐色粘質シルト層
5. 黄褐色粘土層  
(若干層を表す)
6. 黄褐色粘土層
7. 黄褐色シルト層
8. 黄褐色粘質シルト層  
(少量に腐葉を含む)



第20トレンチ

第20トレンチ土色

1. 表土
2. 黄灰色腐砂層
3. 濃い黄褐色シルト層
4. 灰黄色腐砂層
5. 黄褐色腐砂層
6. 赤褐色シルト層
7. 灰青色粘土
8. 黄灰色粘質シルト層
9. 灰褐色土  
(黄三ノ層の縁を若干含む)



第10トレンチ

第10トレンチ土色

1. 表土
2. 黄褐色シルト層
3. 黄褐色粘質シルト層
2. (少し灰色味い)
4. 黄褐色粘質シルト層
5. 灰色粘土層

第7図 丘陵部及びS区トレンチ土層模式図

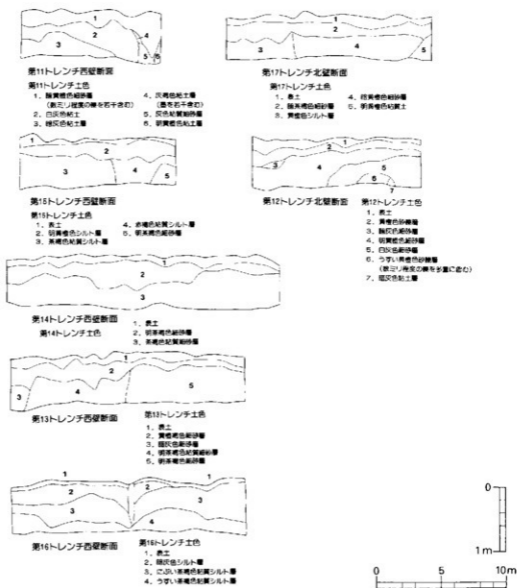


#### ④ 西の池西側（西の池W区）

西の池の西側に第11・12・13・14・15・16・17トレンチの7本のトレンチを設定した。

第11トレンチは幅は1mで長さは11mの南北トレンチである。表土は腐葉土で以下自然堆積であった。遺物は出土しなかった。

第12トレンチ・第13トレンチ・第14トレンチ・第15トレンチ・第16トレンチ・第17トレンチも第11トレンチと同じ状況で自然堆積であり、遺物は出土しなかった。また、周辺は太平洋戦争後に食糧増産のために田畑として造成され耕されていたらしい。

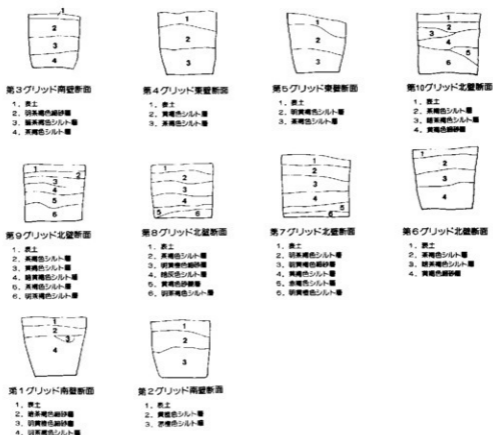


第8図 W区トレンチ土層模式図

### ⑤ 丘陵部

西の池西側の丘陵部に第22トレンチと10カ所のグリッドを設定した。第22トレンチは溜高した池の堤に直交するトレンチで、池の堤を作るために盛土されたと思われる層以外は自然堆積であった。遺物としては盛土内から伊万里の染付の破片が出土した。

第1グリッドから第10グリッドまでの状況はすべて同じ状況で表土以下自然堆積であった。遺物は出土しなかった。



第9図 丘陵部グリッド土層図

### III. まとめ

昨年度に実施した分布調査では西の池周辺は近世遺物片が数点採取しているが今回の試掘調査でも同じような結果が得られた。

検出した遺構としては溝が1条であった。また、遺物も時期不明の土師器の破片と近世の染付が数点出土しているのみである。

以上のことから判断して当該地は埋蔵文化財の存在が非常に希薄な地区であると思われるが、今後も周辺の文化財に対しての十分な配慮を関係各位にお願いして終わりとしたい。

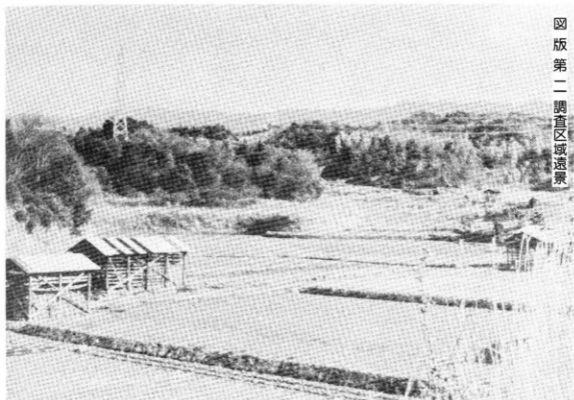


調査風景 機械(バックホー)によるトレンチの掘削

圖

版





南山の手台より調査区域を望む



西の池北半より南半を望む





図版第四 調査風景



E区 調査風景



第3トレンチを望む 東から西



第2トレンチを望む 東から西